

第1、 近況、雑感

1. 八月や六日九日、十五日。終戦後のこの名句から80年、昭和100年。9歳だった小学生には広島も長崎も記憶にない。戦時政府の報道統制もあっただろうか。
戦禍の少ない北海道滝川町（滝川市）で迎えた八月十五日昼、無線技術者だった父が組立てた5球スーパーのラジオを囲んで近所の大人が泣いていた。自分も泣かなければ悪いのかと考えながら、戦争が終わったことだけは分かった。借家の庭に掘った防空壕に、もう逃げ込まなくても良いと気付いただけで嬉しかった。
2. 終戦か、敗戦とかどちらでも良かったが、その後の食糧難は最大の困りごとだった。いもの澱粉かすや、デントコーンの、馬も食べない捨て物でどの位のいだのか。自宅の便槽から汲み取った汚物を漬物樽に入れ、5～6km先の知人の山すそに、じゃがいもの芽をすぐって植えて、何年か食いついだ記憶が残っていて、今も1年間食べる各種のじゃがいものを耕作して生きることには精を出しているつもり。
3. 原爆のことは少しずつ分かってきて、広島3回、長崎は1回訪ねたが、「広島原爆記念館」で朱色の炎のような句集『広島』を見つけた。昭和30年、今から70年前の8月6日出版。伝説の句集、掲載者は全国から全部で545人、1521句掲載。（北海道からは3人のみ）西東三鬼、中村草田男、原民喜など有名人に混じって、“怒り込めて石臼ひけり原爆忌”外5句の私の作品も選ばれていた。昭和29年、今から72年前、17歳のときの作品。今も展示されているそうだ。この詳細は、昨年暮刊行の永田浩三著「原爆と俳句」に詳しい。
この被爆国は70基以上の原発を建設してしまったが、未だ福島の後始末が出来ていない。それなのに東電の株価が年初来の高値を更新のナゾ。デブリ取り出しにあと50年、8兆円は結局国の負担になるのか。被爆協にやっとノーベル賞が届いたが、何も解決していない国の一人として、恥ずかしいと思わないのか。
4. 北海道には運転停止中の泊原発3基があるが、そのうちの1基が12年かけて審査に合格し再稼働が許された。3.11 に学んで避難区域が10kmから30 kmに拡大され、当方の農用地・山林など100ha 以上が含まれることになった。発言の機会が増えたと喜ぶべきか、電力会社や国がどれ程の対策を実行してくれるのか、ラビダスとか半導体製造の国営的大会社の電力不足を補うために、住民は犠牲を強いられるだけではないのか。
5. 戦後80年も終わって、経済成長はしたものの、歪みは増える一方。310万人を殺された国として、被爆の反省もないままに原発を作り続け、再稼働させて誰も責任を問われないデタラメな国の国難はどうして片付かないのか。
6. 簡明な答えを示してくれるのが、今月の再読本として末尾に示した、西鋭夫さんの「國破れてマッカーサー」だ。若いころからアメリカに住み、スタ

ンフォード大学やアメリカのすべての図書館で閲覧可能な文献に当って書かれた500頁の大著。アメリカでは私の長女一家と西さんが数少ないMINERA21の愛用者なのだが、15年程前サイン本を送られ、同書の基礎ともなった「マッカーサーの犯罪」(秘録日本占領)上・下巻(昭和 58年刊)と併せて読み進み、いかに日本人が日本人でなくなった実態を少し知ることが出来たと感謝、感激。

7. 同書のあとがきの最後の部分を揚げます。西先生無断引用お許しください。
『我々の魂と誇りの情炎が、二度と燃え上がることもなく、国の宝であるべき若者たちは、国の歩みも知らず、激情の喜びや有終の美も知らず、感動する夢やロマンを見出せず、富国日本の住民は、二千年の国史をむぎむぎと犠牲にして、打ち拉がれた精神状態のまま、寂しく亡国の憂き目を見なければならないのか。
「國破れて、山河在り」は、誇り高き敗者が、戦乱で壊された夢の跡に立ち、歌った希望の詩だ。歴史に夢を活かすため、夢に歴史を持たせるため、我々が自分の手で、「占領の呪縛」の鎖を断ち切らねば、脈々と絶えることなき文化、世界に輝く文化を育んできた美しい日本の山河が泣く。』

第2、 今月の報告文

・参政党躍進の先に見えるヤバすぎる未来

世の中ラボ 184 (斎藤美奈子)

第3、 今月の再読本

- ・ 「國破れてマッカーサー」(西鋭夫、1998.10.10、中央公論社 2,400 円)
※サイン入、受領本
- ・ 「解き明かされた『不老』の水」長寿王国の秘密は「水」にあった
(ドリーム書房編、1999.3.31、エコー出版 1,430 円)
※50 年位前、この旧版を読み、水に興味を抱き、MINERA21 今日が実現。
たった。古書店で 100 万円以上とか。
- ・ 「病める裁判」 (渡部保夫・伊佐千尋、1989.5.15、文藝春秋 1,600 円)
※サイン入受贈本。渡部弁護士は元最高裁調査官で、役人時代の山形の上司。

第4、 今月のことば

- 幸運は、備えある者にのみ訪れる。(カール・ヤスパース)
- 予想外の出来事にどう対処するかに人となりが見える。(ユベール・ジョリー)
- 書物とは、人の内なる凍った海を割る斧なのだ。(フランツ・カフカ)

2025 年 8 月 31 日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎